



ビルの省エネエキスパート

「エキスパート」の名に ふさわしい よりの確な提案を

大林ファシリティーズ
見積購買部長
鈴木克己



私は10年ほど前にエネルギー管理士の資格を取得し、実際に高層ビルの現場で省エネ運用に5年間携わってきました。また、民間・公共の新規入札案件などに対する見積作成と提案立案、弊社管理物件における省エネ検証やコンサルタント業務も兼務していました。2008年から約5年間常駐していたキャノンSタワーでは、エネルギー消費量の半減を達成し、幾つかの賞も受賞することができました。

その後、会社の省エネアドバイザー的な立場で、他のビルの省エネ運用について、検証・考察などを行うようになりました。しかしながら、1つの建物での実務経験しかなかったことから、もっと多くの事例や手法を学び、また最新の省エネの事情を知ることが必要であると感じていたところ、当検定を知り受検することとしました。

○検定受検まで

実は、この検定の存在を知った時には、既に申し込みの締め切りが迫っていました。慌てて事務局に連絡をし、滑り込みで申し込みを行いました。そのため、検定まで勉強する時間が短く、どうなるかとヒヤヒヤしながら受検したことを覚えています。実際には、エネルギー管理士の資格取得の際に勉強したことや、実務の中で覚えたことなどが意外に生きて、合格することができました。

検定公式テキストは、厚すぎず薄すぎず、集中力を持続させるという意味でも、勉強する量としてはちょうどよかったと思います。文字だけでは理解しづらい箇所には、図やグラフなども挿入されており、わかりやすいものでした。今でも省エネルギーの参考書として利用しています。

○合格後のこと

省エネに関する閃きというか、新たな気付きといった点で役に立っていると感じます。これまで私が常駐していたビルは地域冷暖房を熱源とした高層ビルで、いわゆる熱源機器を自社で有するシステム空調での省エネルギーに取り組んだ経験がありませんでした。

テキストでは、熱源機器の熱生産効率や、HP空調機の温度調整による圧縮機動力の削減など、熱の生産における省エネルギーにも言及されており、こうした点に着目して提案できるようになりました。

また、お客様から省エネルギー運用・改修工事などの相談を受けた際、これまででは気が付かなかったような省エネルギーのポイントにも考えが及ぶようになり、よりの確な提案ができています。

○これから検定を受けられる方へ

エネルギー管理士が理論的なことを学ぶのに対し、当検定は、より実務に役立つ情報を学ぶきっかけになると思います。また「エキスパート」と名が付くことにより、まわりの方の見る目も変わります。自分自身も相応の仕事をしなければと励みにもなると思います。

これまで省エネに携わってこなかった方も、当資格を取得することで、省エネに関する業務に携わることになるかもしれません。そういった意味で、省エネに携わっている方もまだの方も、受検を考えられてはいかがでしょうか。